

# 道議候補 星野高志



星野候補は、この4年間、皆様のご期待に応えるため働いてきました。

選挙が始まりました。星野候補は、この選挙を「国民と立憲が力を合わせ、国民無視の安倍政権に打撃を与える闘い」と位置づけ、有権者の皆様に連日訴え続けています。

## 両党の協力で政権に打撃

## 国民・立憲が全力で応援

### 星野候補を

「なぜ、国民と立憲は別々なのか？」

「国民と立憲の違いがよくわからない。なんで別々なんでしょう。安倍政権のやりたい放題にストップをかけるためには、お互いに協力した方がいいのでは」という電話が、星野高志選挙事務所、市民の皆さんから、よくかかっています。

私たち事務所のスタッフも、そう思います。中央は過去のしこりもあるでしょう。しかし地方は、元々一緒に仲間です。一つになれないはずはありません。星野候補も、「私はいつまでも、国民と立憲が別々のままでもいいとは思っていません。現に道議会では、国民

一月に、国民・立憲・連合の三者は、「市内の道議市議候補は、相互に推薦する。全員当選のため、お互いに全力で応援する」という合意に達しました。この合意により、星野候補は、国民の公認と立憲の推薦を受ける

相互推薦を三者（国民・立憲・連合）で合意

と立憲で統一会派を組んでいます。議会で統一して活動することは、二つの党が再統一するスタート地点に立ったということになります。地方で野党が協力すれば、安倍政権に打撃を与えることになりません。そうすれば今度の選挙にも勝利できるのです」と話しています。

ことになりました。星野候補は「両党に感謝します。ご期待に応えるため全力で闘います」と話しています。

1951年…東京都葛飾区で生まれる  
1970年…都立大理学部(物理)入学  
1974年…緑の大地に憧れ来道  
1975年…市営地下鉄南北線運転士  
1995年…北海道議会議員初当選  
2002年…議会エネルギー委員長

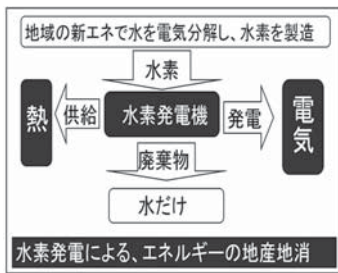
2004年…民主党北海道幹事長  
2007年…議会経済常任委員長  
2008年…環境プロジェクト座長  
2011年…脱原発プロジェクト座長  
2013年…道民の日プロジェクト座長  
現在…東区国民民主党代表

# 国民民主党 公認 立憲民主党 推薦

# 世界初の水素発電 東京五輪で導入

## 道議 道有施設への導入を提案

星野道議は「国が今年から神戸市で始めた世界初の水素発電実証試験を例に出し、今後の展望について質しました。」



知事は、「小規模な水素発電は、2020年の東京オリ・パラ競技大会における関連施設への電力供給を検討している」と答弁しました。

さらに道議は「水素発電は廃棄物が水という極めて安全な設備だ。消費地に隣接して設置できるので、電気だけでなく熱も同時に利用できる。道有施設への将来的導入も検討すべ

き」と迫りました。知事は、「電気と熱を供給できるシステムは本道の地域特性にマッチしている。必要な情報を収集、評価し、今後の道有施設での活用の可能性について検討していく」と答弁しました。



## 急がれる温暖化対策 取引制度を提案

本道は、本州に比べて家庭部門のCO2排出割合が高くなっています。例えば、灯油、ガソリン、電気、ガスなど。これらの使用を抑えることは、CO2排出を抑制し温暖化防



温暖化による災害も多発

止に大きく貢献します。しかし、「地球のために頑張ろう」と訴え

ても、なかなか実行するのは難しいものです。そこで道議は、節電など個人レベルで排出抑制した分を数値化し、目標値を達成出来ない企業に売る仕組み、個人レベルの排出量取引制度の導入を知事に提案しました。知事は、「国が排出量取引制度の検討を行っていることに注視し、経家庭部門での効果的な対策を検討していく」と答弁しました。

## 星野高志が目指す北海道 食の安全を徹底

法律で定めた品目以外にも、道産食材について、自主的な原産地表示を進める取組を、議会で引き出しました。その徹底を求めます。

遺伝子組み換え食品の表示偽造防止にもしっかり取り組みます。

## 社会保障の充実

住みなれた地域で暮らし続けることは、みんなの願いです。医療と介護を連携させる地域包括ケアシステムの構築を進めて参ります。

札幌市と連携し待機児童ゼロを目指します。

## 雇用安定化に全力

深刻な人手不足が指摘される一方、非正規など働き方の不安定さも問題です。不安解消に努めます。

ものづくり産業の育成も重要です。人材育成を通じて、活力ある地域づくりに全力を挙げます。

## 平和を守り抜く

子どもたちに、安心な北海道を引き継がなければなりません。

秘密保護法や集団的自衛権の行使容認など、平和の危機です。戦争への道にストップをかけるため、地方から声を挙げ続けます。

## 原子力依存からの脱却

道の調査で、84%の道民が将来的に原子力に依存しない北海道を求めていることがわかりました。北海道は新エネルギーの宝庫です。新エネの弱点を克服し、導入促進に真剣に取り組みます。



国は、沖縄県で世界初の海水揚水発電の実証実験を続けてきましたが、施設は閉鎖解体されました。もったいない話です。揚水発電とは、余剰電力でポンプを回し下の貯水池から上の貯水池に水をくみ上げておき、必要時に水を落とし発電する

## 本道に有効な海水揚水発電 沖縄のデータ活用

道議は「離島で風力発電をおこない、海水揚水発電として活用すれば本道では魅力的なシステムになる。活用の意義があるのでは」と質しました。これに対して経済部長は「海に囲まれた本道は、海洋再生エネの活用が大事。沖縄で得られたデータを収集し市町村や民間事業者へ選択肢の一つとして提供していく」と答弁しました。



## 道内の観光消費額 1兆3千億円に

爆買いが目立つが、外国人は1割以下

道の資料では、道内における旅費、宿泊費、お土産など、観光にかかわる総売り上げ(観光消費額)は、約一兆三千億円です。そのうち、外国人の額は九百億円弱に過ぎません。星野道議は「北海道観光を支えているのは、実は日本人だ。この点を見逃してはいけない」と質しました。知事は「国内客の観光消費額は多い。道外からの観光客誘致に、積極的に取り組む」と答弁しました。